

次号のNEWSLETTERの発行は、3月を予定しています。
研究発表会の様子や本年度の研究成果の報告などを
掲載予定です。

よろしくお願ひします



第23回 教育研究発表会

令和4年2月18日(金)

オンライン開催!!
学校から参加できます!!!
詳細は裏面に!!



数々の研究実践を行った研究員から、
「第23回教育研究発表会」
のご案内です。



小・中学校 教科指導(社会科)

学ぶ意味を実感できる 社会科を目指して

研究員:藤本 裕之

“見える一ペ”という道具を用いて
小中の学びをつないでみると…。



小学校 外国語教育

学びに向かう力を育む 外国語教育の一方策

研究員:丹後 由香

目の前にいる子どもたちの主体性を
引き出す外国語教育について
考えてみませんか？



小学校 教科指導(算数科)

子どもが 思考し判断し表現し続ける 授業デザインの提案

研究員:梶村 契

学習の進め方は子ども一人一人違って
いいのではないのでしょうか。



小学校 情報教育

ICTを文房具にする取組

研究員:木村 祐太

GIGA 端末を使った授業の理想は？
何年生でどのくらい使えれば？
どのような段階を踏めばいいの？
一例を紹介します。

中学校 情報教育

情報活用能力を基盤とした 学習を自己調整する力の育成

研究員:久保田 守

学習時間や内容、方略といった情報を
活用して学習の自己調整を進めて
いきます。



中学校 教科指導(数学科)

GIGA端末を活用した 思考過程の見える化を通して

研究員:寺井 淳

子どもの思考過程を見える化し、
学びが深まる実践を考えてみませんか？



第23回 教育研究発表会のご案内

日時 令和4年2月18日(金) 14:40~17:00(14:10より入室開始)

開催方法 Zoomによるオンライン開催

参加費 無料

申込先 e アンサーにて, 当センターに申し込んでください。

詳しい内容は、[京都市総合教育センター研究課](#) をご覧ください。

申込締切 令和4年2月4日(金)

このQRコードからも
検索できます。



14:40 15:00~ 15:50 16:05~ 17:00

		研究発表Ⅰ	研究発表Ⅱ
A 分科会	開会の挨拶・ 教育研究の方向性について	情報活用能力を基盤とした 学習を自己調整する力の育成 ~GIGA端末を活用した 学習方略の共有と 学習情報の管理を通して~ 研究員 久保田 守	ICTを文房具にする取組 ~日常的な活用と 校内組織づくりに注目して~ 研究員 木村 祐太
		学びに向かう力を育む 外国語教育の一方策 ~外国語を用いて伝え合う 楽しさを実感させながら~ 研究員 丹後 由香	学ぶ意味を実感できる 社会科を目指して ~小中で多面的・多角的に事象を 捉える力の育成を通して~ 研究員 藤本 裕之
		算数科における 「個別最適な学び」と 「協働的な学び」の 授業の在り方を求めて ~子どもが 思考し判断し表現し続ける 授業デザインの提案~ 研究員 梶村 契	数学科における 「個別最適な学び」と 「協働的な学び」の 授業の在り方を求めて ~GIGA端末を活用した 思考過程の見える化を通して~ 研究員 寺井 淳

第3回 フレッシュせんせい教師力アップ教室

※コロナ感染状況を鑑み、第3回フレッシュせんせい教師力アップ教室は中止となりましたが、みなさんからいただいたご意見を紹介します



テーマ

「課題がすぐに終わってしまう子や自分の力だけでは課題に取り組めない子など様々な子どもたちが教室にはおり、いつも差ができてしまっています。クラスのみんなの力を高めていくにはどうすればよいでしょうか」

みなさんのご意見

Aさん

既習事項を使って、自分で問題作りに取り組む。⇒課題がすぐに終わった子ども同士で解いてもらう。

Bさん

すぐにできた子どもが、まだできていない子どもに教えてあげる方法です。しかし、課題が終わったらすぐに教えに行くのではなく、まずはどう伝えたらうまく教えられそうかを考えさせ、考えられたら教えてみるという方法です。

Cさん

積極的に補助の先生にお願いして、支援のいる子どもたちにどのような支援が必要か伝えておくことが大切だと思います。

Dさん

すぐ終わる子ども用に、新しい課題をいくつか前もって用意しておき、それに取り組んでいる間に、支援のいる子どものところに回ります。

Eさん

あらかじめ「上位の生徒がさらに深く考えるような問いかけ」と「低位の生徒が少しでも自分で考えて取り組むための助言」を考えてから授業をしています。しかし、生徒の取り組む様子や書いている内容によって適切な支援は変わってくると思うので、臨機応変にできるようになりたいです。

Fさん

全体で同じことを同じスピードで行う必要はないと考えています。子どもは個人に合ったスピードで学習を行い、教員は生徒の様子を注意深く観察し、必要に応じて必要な手助けができる状態になるよう準備することが必要だと考えます。

みなさん、様々なご意見をありがとうございました。送っていただいた意見で多かったのは、「課題を複数用意しておく」といった手立てでした。学びを進める速さは子ども一人一人違うでしょう。Eさんのように、その子に合った問いを準備したり、Fさんのような視点をもって支援したりしていただくことが大切ですね。しかし、課題を複数準備するのは大変かもしれません。そこで、本年度から本格的に導入された GIGA 端末を活用してみてもどうでしょうか。Aさんのように、子どもたちが作った問題を送り合って解いたり、課題を複数準備したものを教師間で共有したりすることで、一人一人に合った課題に子どもたちが取り組むことができ、子ども一人一人の力を高めていけるのではないのでしょうか。今回は残念ながら研修が中止となりましたが、左記の教育研究発表会には、この課題を解決するヒントを紹介できる発表もあります。是非参加してみてください。一緒に考えていきましょう。(研究員より)

